

いまナゴヤで起きていること → わたしたちができること



身近な森や生きものをつなぐ自然のめぐみで

わたしたちの生活が成り立っています。

わたしたちの生活は、
生きものつながりに
影響を与えています。

竹林の侵食



【開発】

田んぼや丘陵地の宅地化、
ため池や水路の護岸整備などで
生きものすみかが減りました。
田んぼや小川に普通にいたメダカも
絶滅の危機に瀕しています。



写真提供：東山動物園

【里山】

薪や堆肥や山菜を採り、使うことで保たれてきた
日本の里山やため池の生態系。
使わないと荒れてしまい、むかしからいた生きものも生きられません。

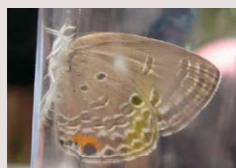
【世界の生物資源を消費するわたしたちの暮らし】

日本は食料の6割を輸入。
なかでもマグロの消費は世界漁獲量の3分の1。
マグロを含む世界の主な魚類のうち4分の1が
獲り過ぎといわれています。このままでは日本人の大好きな
マグロが食べられなくなる日があるかも。



【地球温暖化】

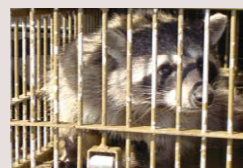
温暖化で気温が1.5~2.5℃上がると
動植物の20~30%が絶滅の危機に。
サンゴの白化、コメや果樹の品質の
低下はすでに問題になっています。



名古屋市内で発見された熱帯性のチョウ「クロマダラソテツジミ」。
これも温暖化の影響かも。(写真提供：なごや東山の森づくりの会)

【外来生物】

海外などからの生きものを持ち込みが、
在来の生きものや人の生活に影響しています。
アライグマが庭や畑を荒らしたり、ブラックバスが
在来の魚や水生昆虫を食べてしまっています。



名古屋市内で捕獲されたアライグマ



【捨てないで】

堀川で見つかった37kgのワニガメ。
飼いきれなくて投げ込まれたのでは。
ペットは責任を持って最後まで飼ってください。
あなたが放したペットが生物多様性に
重大な悪影響を及ぼすかも。

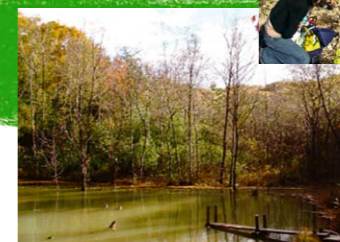
名古屋市内にある貴重な生態系が守り育てられています。
森を守り育てる「なごや東山の森づくり」、
苗木を植え森を作る「なごや西の森づくり」、
堀川を調査する「堀川1000人調査隊2010」、
ため池の生物調査や保全・再生活動を行う
「名古屋ため池生き物いきいき計画事業」などがあります。

【守ろう】

なごや西の森づくり



名古屋ため池生き物いきいき計画事業



なごや東山の森づくり



堀川1000人調査隊2010

【見よう・知って伝えよう】

自然環境や生物多様性の守り方を楽しく体験しながら学べる場があります。
幼稚園や保育園の「バケツ稲づくり」、
小学生が身近な自然の観察会に参加する「児童生きもの調査隊」、
子どもから大人まで興味関心に合わせて学べる「なごや環境大学」
などがあります。



バケツ稲づくり



児童生きもの調査隊



なごや環境大学

【地産地消】を食べよう

近くで取れた旬の野菜や果物を食べるのは
体にも自然環境にもいいこと。
名古屋にも八事五寸人参や大高菜などの
伝統野菜があります。



わたしたちやその次の市民のために、
歩いて暮らせるまち、森と水がつながった風のまち、
人と生きものが仲よく暮らせるナゴヤを作っていきます。
一番大きなわたしたちができることは、
市民が参加できる新しい仕組みを作って、
ナゴヤを変えていくことです。

生きものに気づかった商品を【買おう】

海のエコラベル「MSCマーク」、
森林のエコラベル「FSCマーク」、
どちらも生物資源をとり尽くさない配慮をした
商品の認証マーク。
お買い物はぜひこのマークがついているものを。



©1996 Forest Stewardship Council A.C.

【日常のエコ】

使っていない電化製品はコンセントからプラグを抜く。
マイカーではなく徒歩や自転車、バスや電車で外出。
ゴミと資源は分別。
日常のエコは生物多様性の保全のキホンです。



【作ろう・変えよう・参加しよう】

